

死って、悲しいだけなの？

～悲しみを力に変える～

大切な人との別れは、悲しみだけではありません。
その後のあなたの人生にとって、大切な何かを得る機会となる
可能性を秘めています。悲しみから生まれるものもある、
深い悲しみを知るからこそ感じられる喜びもあります。誰もが
いつかは必ず迎える「その時」のために、亡き夫との時間
から得た沢山の大切なことを、皆様にお話します。

終活ジャーナリスト
ライフ・ターミナル・ネットワーク 代表

金子稚子

厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方
に関する検討会」構成員
一般社団法人 日本医療コーディネーター協会共同代表理事

2024 2.17 Sat.

場所：みどりアートパークホール
横浜市緑区民文化センター（緑区長津田 2-1-3）
JR 横浜線・東急田園都市線長津田駅北口徒歩 4 分

時間：18：30 開場
19：00 講演開始
20：00 講演終了

Profile

誰もが必ずいつかは迎える「その時」のために、情報提供と心のサポートを行っている。単なる体験談に留まらず、専門家や当事者への取材情報も交えながら、終末期から臨終、さらに死後のことまでをも分析的に捉えた冷静な語り口は、各地から高い評価を得ている。

■経歴・活動歴

1967年、静岡県生まれ。静岡女子短期大学（現：静岡県立大学短期大学部）卒業。出版社勤務後、フリーランスの編集者として、サッカーや海外留学など数多くの雑誌や書籍を制作。その後、広告制作会社の経営に参画。役員を兼務しながら、ディレクター、プロデューサーとして制作業務にも従事。夫は、2012年10月に他界した流通ジャーナリストの金子哲雄。病気の確定診断とともに死の宣告を受けた夫の闘病生活や死に寄り添う中で、死がタブー視されるがために起こっているさまざまな問題に気づく。夫と死別後は、編集者だった経験を生かして、医療から葬儀・供養、墓、さらには遺族ケアに至るまで、死の前後に関わるさまざまな事象や取り組み、産業を取材。人生100年時代を迎えた今、死を捉え直したアクティブ・エンディングを提唱。多岐にわたる情報提供とともに、「次の終活」として、私たち自身が自分で「いきかた」を決める必要性を訴えている。現在一貫して“死の前後”にこだわり、領域をまたいで、専門家や当事者への取材を重ねながら、誰もがいつかは必ず迎える「その時」のために、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)、“人生会議”の普及・啓発など精力的に活動中。

■著書

『自分のため・家族のために今日から始める～50歳からのエンディング・ダイアリー』（駒草出版/2022年）
『アクティブ・エンディング～大人の「終活」新作法』（河出書房新社/2015年）
『金子哲雄の妻の生き方～夫を看取った500日』（小学館文庫/2014年）
『死後のプロデュース』（PHP新書/2013年）

■これまでの主な出演番組

BS日テレ「深層NEWS」
ニッポン放送「垣花正とあなたとハッピー」
NHKラジオ「ごごラジオ」
など

 緑区医師会

市民講演会
令和5年度グリーンケアモデル事業

事前申込制

入場無料

先着100名
定員になり次第締切



Wakako Kaneko

流通ジャーナリスト故・金子哲雄氏の妻

申込先

緑区在宅医療相談室

電話またはホームページから
お申込み下さい

TEL 045-937-2303

月～金 9:00～17:00 (祝日除く)

URL <https://www.midorikuishikai.com>



[主催] 横浜市緑区医師会・緑区在宅医療相談室